

お台場旧防波堤(2 島)における鳥類のモニタリング調査 秋季調査(10 月)報告書

2024 年 11 月 一般社団法人 お台場海づくり協議会

1. 調査目的

本調査は、お台場海浜公園内防波堤(以下、鳥の島と記す)において鳥類の利用状況や経年変化を把握し、鳥類の生息環境保全について検討するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

鳥の島 2 島及び周辺水域(周辺 50m 程度)

3. 調査期日等

調査期日等を表 1 に示す。

表 1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
令和 6 年 10 月 15 日(火)	8:00~14:00	晴れ

4. 調査方法

各調査項目において、倍率 8~10 倍程度の双眼鏡や倍率 20~60 倍程度の望遠鏡等を必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、(2)~(4)の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2 島に調査員を 1 名ずつ配置し、2 島同時に実施した。また、補足調査として(5)の調査を実施した。

(1) 船上センサス

2 島の 50m 程度沖を船舶により定速で周回しながら、2 島及び周辺を観察し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(2) ラインセンサス

2 島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速 1~2km 程度の速度で歩きながら目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。センサスルートを各島に1本設定し、観察範囲を片側 50m(両側 100m)とした。

(3) 定点観察調査

2 島の眺望のよい地点に定点を 2 点ずつ設定し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。観察半径は 50m 程度、調査時間は各 30 分間とした。

(4) 任意観察調査

2 島の全域を任意に踏査し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(5) その他

- 自動撮影カメラによる調査

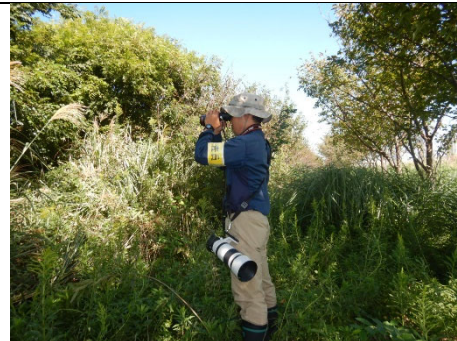
第 5 回秋季調査(※調査回の定義については後述する)においてホンダタヌキのため糞が確認されたことから、島内に生息する生き物の情報を補完するため、同回の冬季調査から自動撮影カメラを西島に1台設置した。なお、本調査で回収したデータの撮影期間は、カメラの不具合により前回調査から 19 日間であった(第 9 回夏季調査～第 10 回秋季調査)。

- その他の生き物の記録

鳥類調査時に特記すべき生き物が確認された場合は、種名、個体数、行動等を記録した。



船上センサス



ラインセンサス



定点観察調査



任意観察調査

写真 1(1) 各調査手法における調査風景



写真 1(2) 各調査手法における調査風景

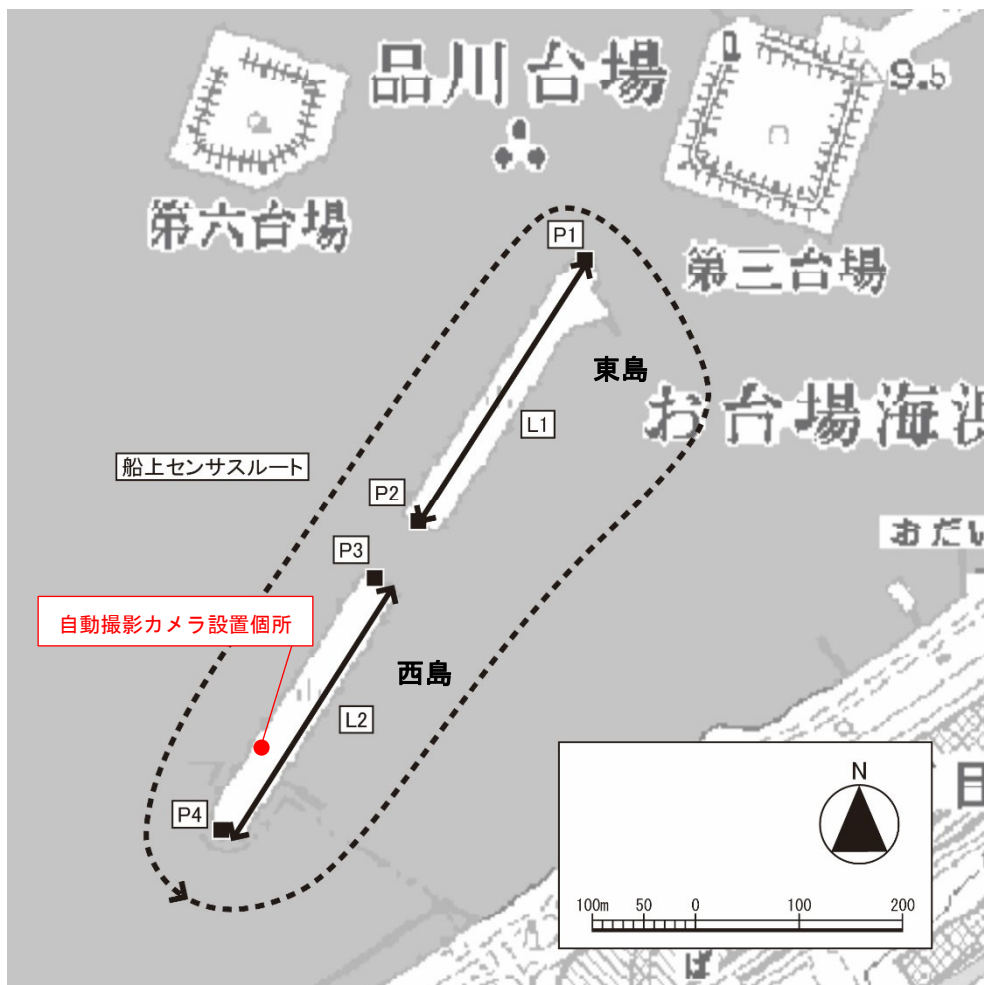


図 1 調査地点

5. 評価方法

(1) 調査回の定義

各調査結果をとりまとめ、過去の調査と比較をすることで、今回の調査結果を評価した。調査回の定義を表 2 に示す。今回は第 10 回の秋季調査にあたる。

表 2 調査回の定義

調査回	調査時期	調査回	調査時期
第 1 回	平成 27 年夏季～平成 28 年春季	第 6 回	令和 2 年秋季～令和 3 年夏季
第 2 回	平成 28 年秋季～平成 29 年夏季	第 7 回	令和 3 年秋季～令和 4 年夏季
第 3 回	平成 29 年秋季～平成 30 年夏季	第 8 回	令和 4 年秋季～令和 5 年夏季
第 4 回	平成 30 年秋季～令和元年夏季	第 9 回	令和 5 年秋季～令和 6 年夏季
第 5 回	令和元年秋季～令和 2 年夏季	第 10 回	令和 6 年秋季～令和 7 年夏季

(2) 重要種の選定根拠

重要種の選定根拠を表 3 に示す。いずれかに該当する種を重要種として記録した。

表 3 重要種の選定根拠

No.	選定資料	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)	特天:特別天然記念物 天 :天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号)※以下、種の保存法と記す	国内:国内希少野生動植物種 国際:国際希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020 鳥類」(令和 2 年、環境省) ※以下、環境省 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA 類 EN:絶滅危惧ⅠB 類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
④	東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020 年版 『東京都レッドリスト(本土部)2020 年版』 (令和 2 年、東京都)※以下、東京都 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA 類 EN:絶滅危惧ⅠB 類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群 *:留意種 *①:準絶滅危惧(NT)に準ずる。 *②:人為的な環境配慮により個体群が維持されている。

6. 調査結果

(1) 現地調査結果

鳥類確認種目録を表 4、船上センサス結果を表 5、ラインセンサス結果を表 6、定点観察結果を表 7 に示す。

- 現地調査の結果、8 目 18 科 26 種が確認された(表 4)。
- 確認種の約 6 割が水域及びその周辺に生息する種であり、15 種(カルガモやカワウ、ダイサギ等)が確認された。島内では、森林及びその周辺に生息する種として 6 種(オオタカやヒヨドリ、キビタキ等)が確認されたほか、都市部で見られる種として 2 種(ムクドリ及びスズメ)、様々な環境で見られる種として 3 種(キジバト、トビ及びハシブトガラス)が確認された(表 4)。
- 当該地域における渡り区別にみると、留鳥(鳥の島で一年中見られる種)の確認種数が最も多く、18 種(カルガモやキジバト、ハクセキレイ等)が確認された。次いで冬鳥(鳥の島で冬に見られる種)が 6 種(コガモやオオバン、ユリカモメ等)、旅鳥(鳥の島で春と秋に見られる種)が 2 種(キビタキ及びキセキレイ等)確認された。
- 重要種は、スズガモ、ダイサギ、コサギ、オオバン、イソシギ、ウミネコ、ミサゴ、トビ、オオタカ及びイソヒヨドリの合計 10 種が確認された(表 4)。島内では、護岸で休息や採餌するダイサギやコサギ、イソシギ、広葉樹林で休息するオオタカが確認された。島外では、遊泳するスズガモ及びオオバン、海域で飛翔するウミネコ、ミサゴ及びイソヒヨドリが確認された。島内外では、広葉樹林で休息や上空で採餌飛翔するトビが確認された。
- 外来種は確認されなかった(表 4)。
- 確認個体数の最も多かった種は、ヒヨドリであった。船上センサスでは、両島で合計 50 個体(表 5)、ラインセンサスでは、両島で合計 61 個体が確認され、優占度は東島で 67%、西島では 74%を占めた(表 6)。また、定点観察調査では、両島で合計 245 個体が確認され、優占度は各地点 42~85%を占めた(表 7)。両島ともに上空通過や広葉樹林内にとまる個体が多く見られた。
- ヒヨドリに次いで確認個体数の多かった種は、カワウであった。船上センサスでは、東島で 12 個体、西島で 4 個体の合計 16 個体(表 5)、ラインセンサスでは、西島で合計 2 個体(表 6)、定点観察調査では、東島で 26 個体、西島で 19 個体の合計 45 個体(表 7)が確認された。両島内外の上空を飛翔する個体が多かったほか、西島の広葉樹林にとまる個体も確認された。
- 各調査手法のうち、確認個体数が比較的多かった種は、カルガモ、アオサギ、ムクドリであった。カルガモは、船上センサスにおいて両島で合計 19 個体(表 5)、アオサギは、船上センサスにおいて両島で合計 32 個体(表 5)、ラインセンサスにおいて両島で合計 4 個体(表 6)、ムクドリは定点観察調査において両島合計 20 個体(表 7)確認された。カルガモは、海域を飛翔、遊泳する個体が多く、アオサギは、護岸で休息する個体が多く確認された。ムクドリは、広葉樹林でとまりや上空を飛翔する個体が多く確認された。

(2) 過去調査との比較

それぞれの前回調査との比較について、表 8 に確認種、表 9 に船上センサス結果、表 10 にラインセンサス結果、表 11 に定点観察結果、表 12 にこれまでの鳥類確認種目録を示す。

- 第 9 回(前回調査)と第 10 回(今回調査)の確認種数は、第 9 回では東島で 19 種、西島で 18 種、合計 23 種、第 10 回では東島で 22 種、西島で 18 種、合計 26 種であった(表 8)。第 9 回及び第 10 回で確認された共通種は 20 種であり、第 9 回の確認種全体の約 8 割であったことから、鳥類相に大きな変化は見られなかった。
- 第 9 回で確認されず第 10 回で確認された種は、コガモ、オオバン、ミサゴ、メジロ、キビタキ及びキセキレイの 6 種であった(表 8)。コガモ、オオバン、ミサゴ及びメジロは、これまでの秋季調査において不定期に観察されている種である。また、キビタキ及びキセキレイは旅鳥であり、これまで秋季のみ確認されているが、記録が少ない種であることから、第 9 回では確認されなかったと考えられる。
- 第 9 回で確認され第 10 回で確認されなかった種は、ハヤブサ、カケス及びドバトの 3 種であった(表 8)。そのうち、ハヤブサ及びドバトは留鳥であり、これまでの秋季調査において、不定期に観察されている種である。また、カケスは旅鳥であり、これまで本島では秋季のみ確認されているが、記録が少ない種であることから、第 10 回では確認されなかったと考えられる。
- 第 9 回より第 10 回で個体数が増加した種は、ヒヨドリであった(表 9、10、11)。第 10 回では、前述したように、海上を群れで飛翔し、一時的に両島に飛来する渡りの個体が多く確認された。第 9 回についても、各調査手法において優占度は高かったことから、この時期は多くの渡りの個体が一時的に両島を休息や採餌で利用すると考えられる。
- 第 9 回より第 10 回で個体数が減少した種は、カワウであった(表 9、10)が、第 9 回、第 10 回ともに飛翔個体の記録がほとんどであった。また、第 10 回の調査終了後には、東島北側の調査範囲外の海上で 1000 個体以上の飛翔が観察され、第六台場の枯れ木にとまる様子が確認されたことから、第 10 回では調査範囲内での記録が少なかったものの、周辺には多く生息しており、第 9 回では一時的に飛翔個体が多く記録されたものと考えられる。

(3) その他

自動撮影カメラによる調査及び鳥類調査時に確認されたその他の生き物の記録を整理した結果、鳥類 3 目 3 科 3 種、哺乳類 1 目 1 科 1 種が確認された。

- 自動撮影カメラの画像を解析した結果、鳥類ではアオサギ、トビ及びハシブトガラスの 3 種、哺乳類ではドブネズミの 1 種が確認された。
- 自動撮影カメラにおいて、前回調査(第 9 回夏季調査)に引き続き、ハシブトガラス幼鳥が成鳥に対して餌乞する様子が撮影され、周辺地域で繁殖した家族群が本島を養育場所として利用していると考えられる。また、魚類を摂食するアオサギが撮影された。

表 4 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	渡り区分	調査時期		重要種選定基準			
					秋季(10月)		①	②	③	④
					東島	西島				
1	カモ	カモ	カルガモ	留鳥	○	○				
2			コガモ	冬鳥	○					
3			スズガモ	冬鳥		○				*②
4	ハト	ハト	キジバト	留鳥	○	○				
5	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	○	○				
6	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	○	○				
7			ダイサギ	留鳥	○	○				NT
8			コサギ	留鳥		○				VU
9	ツル	クイナ	オオバン	冬鳥	○					CR
10	チドリ	シギ	イソシギ	留鳥	○	○				VU
11		カモメ	ユリカモメ	冬鳥	○					
12			ウミネコ	留鳥	○	○				*①
13	タカ	ミサゴ	ミサゴ	冬鳥	○				NT	EN
14		タカ	トビ	留鳥	○	○				NT
15			オオタカ	留鳥	○				NT	EN
16	スズメ	カラス	ハシブトガラス	留鳥	○	○				
17		シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	○	○				
18		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	○	○				
19		メジロ	メジロ	留鳥		○				
20		ムクドリ	ムクドリ	留鳥	○	○				
21		ヒタキ	イソヒヨドリ	旅鳥	○					NT
22			キビタキ	旅鳥		○				
23		スズメ	スズメ	留鳥	○	○				
24		セキレイ	キセキレイ	旅鳥	○					
25			ハクセキレイ	留鳥	○	○				
26		アトリ	カワラヒワ	留鳥	○					
合計	8 目	18 科	26 種	-	22 種	18 種	0 種	0 種	2 種	10 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

注 2. 重要種選定基準は表 3 に従った。

表 5 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				秋季(10月)		
				東島	西島	
1	カモ	カモ	カルガモ	5	14	19
2	カツオドリ	ウ	カワウ	12	4	16
3	ペリカン	サギ	アオサギ	31	1	32
4			ダイサギ	3	0	3
5	ツル	クイナ	オオバン	1	0	1
6	チドリ	シギ	イソシギ	9	3	12
7	タカ	タカ	トビ	2	0	2
8			オオタカ	1	0	1
9	スズメ	カラス	ハシブトガラス	4	2	6
10		ヒヨドリ	ヒヨドリ	15	35	50
11		セキレイ	キセキレイ	1	0	1
12			ハクセキレイ	3	2	5
合計	7 目	9 科	12 種	87	61	148
				12 種	7 種	12 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				秋季(10 月)				
				L1(東島)		L2(西島)		
				個体数	優占度	個体数	優占度	
1	ハト	ハト	キジバト	3	8%	0	0%	3
2	カツオドリ	ウ	カワウ	2	5%	0	0%	2
3	ペリカン	サギ	アオサギ	1	3%	3	6%	4
4			コサギ	0	0%	1	2%	1
5	タカ	タカ	トビ	2	5%	0	0%	2
6	スズメ	カラス	ハシブトガラス	0	0%	3	6%	3
7		シジュウカラ	シジュウカラ	2	5%	0	0%	2
8		ヒヨドリ	ヒヨドリ	26	67%	35	74%	61
9		ムクドリ	ムクドリ	0	0%	4	9%	4
10		スズメ	スズメ	2	5%	1	2%	3
11		セキレイ	ハクセキレイ	1	3%	0	0%	1
合計	5 目	10 科	11 種	39	100%	47	100%	86
				8 種		6 種		11 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 7 定点観察結果

No.	目名	科名	種名	調査時期								合計 個体 数
				秋季(10月)								
				東島				西島				
				P1		P2		P3		P4		
				個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	
1	カモ	カモ	カルガモ	0	0%	0	0%	0	0%	3	5%	3
2	カツオドリ	ウ	カワウ	24	19%	2	5%	10	7%	9	16%	45
3	ペリカン	サギ	アオサギ	1	1%	2	5%	2	1%	1	2%	6
4			ダイサギ	0	0%	0	0%	0	0%	2	4%	2
5	チドリ	シギ	イソシギ	3	2%	2	5%	0	0%	3	5%	8
6		カモメ	ウミネコ	1	1%	1	3%	1	1%	11	19%	14
7	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	2%	1	3%	2	1%	0	0%	5
8		シジュウカラ	シジュウカラ	1	1%	0	0%	1	1%	0	0%	2
9		ヒヨドリ	ヒヨドリ	69	54%	29	74%	123	85%	24	42%	245
10		メジロ	メジロ	0	0%	0	0%	2	1%	0	0%	2
11		ムクドリ	ムクドリ	20	16%	0	0%	0	0%	0	0%	20
12		ヒタキ	キビタキ	0	0%	0	0%	2	1%	0	0%	2
13		スズメ	スズメ	5	4%	1	3%	0	0%	4	7%	10
14		セキレイ	ハクセキレイ	1	1%	1	3%	2	1%	0	0%	4
合計	5 目	13 科	14 種	127	100%	39	100%	145	100%	57	100%	368
				10 種		8 種		9 種		8 種		14 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 8 前回調査結果との比較:確認種

No.	種名	調査時期			
		秋季(10月)			
		第9回(R5~R6)		第10回(R6~R7)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	○	○	○	○
2	コガモ			○	
3	スズガモ	○	○		○
4	キジバト		○	○	○
5	カワウ	○	○	○	○
6	アオサギ	○	○	○	○
7	ダイサギ	○		○	○
8	コサギ	○	○		○
9	オオバン			○	
10	イソシギ	○	○	○	○
11	ユリカモメ	○		○	
12	ウミネコ	○	○	○	○
13	ミサゴ			○	
14	トビ	○	○	○	○
15	オオタカ	○		○	
16	ハヤブサ		○		
17	カケス	○			
18	ハシブトガラス	○	○	○	○
19	シジュウカラ	○	○	○	○
20	ヒヨドリ	○	○	○	○
21	メジロ				○
22	ムクドリ		○	○	○
23	イソヒヨドリ		○	○	
24	キビタキ				○
25	スズメ	○	○	○	○
26	キセキレイ			○	
27	ハクセキレイ	○	○	○	○
28	カワラヒワ	○	○	○	
29	ドバト	○			
合計	29 種	19 種	18 種	22 種	18 種
		23 種		26 種	

表 9 前回調査との比較:船上センサス結果

No.	種名	調査時期			
		秋季(10月)			
		第9回(R5~R6)		第10回(R6~R7)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	6	0	5	14
2	スズガモ	9	0	0	0
3	カワウ	40	74	12	4
4	アオサギ	24	4	31	1
5	ダイサギ	0	0	3	0
6	オオバン	0	0	1	0
7	イソシギ	3	5	9	3
8	トビ	0	1	2	0
9	オオタカ	0	0	1	0
10	ハシブトガラス	1	2	4	2
11	シジュウカラ	1	0	0	0
12	ヒヨドリ	2	14	15	35
13	キセキレイ	0	0	1	0
14	ハクセキレイ	0	0	3	2
15	ドバト	2	0	0	0
合計個体数		88	100	87	61
合計島別種数		9種	6種	12種	7種
合計種数		10種		12種	

表 10 前回調査との比較:ラインセンサス結果

No.	種名	調査時期							
		秋季(10月)							
		第9回(R5~R6)				第10回(R6~R7)			
		L1(東島)		L2(西島)		L1(東島)		L2(西島)	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	スズガモ	0	0%	16	26%	0	0%	0	0%
2	キジバト	0	0%	0	0%	3	8%	0	0%
3	カワウ	3	15%	0	0%	2	5%	0	0%
4	アオサギ	1	5%	1	2%	1	3%	3	6%
5	コサギ	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%
6	イソシギ	2	10%	2	3%	0	0%	0	0%
7	ウミネコ	0	0%	6	10%	0	0%	0	0%
8	トビ	0	0%	0	0%	2	5%	0	0%
9	ハシブトガラス	2	10%	2	3%	0	0%	3	6%
10	シジュウカラ	0	0%	0	0%	2	5%	0	0%
11	ヒヨドリ	9	45%	28	46%	26	67%	35	74%
12	ムクドリ	0	0%	0	0%	0	0%	4	9%
13	スズメ	2	10%	2	3%	2	5%	1	2%
14	ハクセキレイ	1	5%	1	2%	1	3%	0	0%
15	カワラヒワ	0	0%	3	5%	0	0%	0	0%
合計	15 種	20	100%	61	100%	39	100%	47	100%
		7 種		9 種		8 種		6 種	

表 11 前回調査との比較:定観結果

No.	種名	調査時期															
		秋季(10月)															
		第9回(R5~R6)								第10回(R6~R7)							
		東島				西島				東島				西島			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	3	5%
2	スズガモ	0	0%	12	31%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
3	カワウ	5	22%	2	5%	7	19%	2	13%	24	19%	2	5%	10	7%	9	16%
4	アオサギ	0	0%	0	0%	1	3%	1	6%	1	1%	2	5%	2	1%	1	2%
5	ダイサギ	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4%
6	コサギ	0	0%	2	5%	6	16%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
7	イソシギ	1	4%	4	10%	3	8%	1	6%	3	2%	2	5%	0	0%	3	5%
8	ユリカモメ	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
9	ウミネコ	1	4%	0	0%	0	0%	3	19%	1	1%	1	3%	1	1%	11	19%
10	トビ	0	0%	0	0%	0	0%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
11	オオタカ	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
12	カケス	0	0%	2	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
13	ハシブトガラス	1	4%	2	5%	2	5%	1	6%	2	2%	1	3%	2	1%	0	0%
14	シジュウカラ	0	0%	0	0%	2	5%	0	0%	1	1%	0	0%	1	1%	0	0%
15	ヒヨドリ	5	22%	14	36%	9	24%	7	44%	69	54%	29	74%	123	85%	24	42%
16	メジロ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	1%	0	0%
17	ムクドリ	0	0%	0	0%	2	5%	0	0%	20	16%	0	0%	0	0%	0	0%
18	キビタキ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	1%	0	0%
19	スズメ	2	9%	0	0%	0	0%	0	0%	5	4%	1	3%	0	0%	4	7%
20	ハクセキレイ	2	9%	0	0%	4	11%	0	0%	1	1%	1	3%	2	1%	0	0%
21	カワラヒワ	4	17%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	21 種	23	100%	39	100%	37	100%	16	100%	127	100%	39	100%	145	100%	57	100%
		10 種		8 種		10 種		7 種		10 種		8 種		9 種		8 種	

表 12(1) 鳥類確認種目録(第 1 回～第 6 回)

No.	種名	調査時期											
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～ R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～ R3 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	オカヨシガモ				○		○		○	○			
2	ヒドリガモ									○	○		
3	マガモ		○	○	○		○	○	○				
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	ハシビロガモ												○
6	オナガガモ				○	○	○			○			
7	コガモ							○					
8	ホシハジロ						○	○		○	○	○	
9	キンクロハジロ										○		
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ホオジロガモ												
12	ウミアイサ		○					○	○	○			○
13	カイツブリ												
14	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	ミミカイツブリ			○								○	
16	ハジロカイツブリ	○	○	○	○				○	○	○	○	○
17	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19	ゴイサギ					○							
20	ササゴイ		○										
21	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23	チュウサギ									○			
24	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
25	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26	カッコウ科の一種											○	
27	コチドリ	○	○		○	○	○			○	○	○	
28	ヤマシギ												●
29	タシギ								○				
30	チュウシャクシギ												
31	キアシシギ									○			
32	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
33	キョウジョシギ					○	○						
34	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
36	カモメ	○	○			○							
37	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
38	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○					○	
39	コアジサシ	○	○	○	○	○	○		○				
40	ミサゴ	○		○			○		○		○	○	
41	ハチクマ	○											
42	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
43	ハイタカ		○		○					○			
44	オオタカ	○		○	○	○	○		○		●	○	●

表 12(2) 鳥類確認種目録(第 1 回～第 6 回)

No	種名	調査時期											
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
45	ノスリ		○	○	○	○		○		○		○	○
46	オオコノハズク												
47	カワセミ			○			○			○		○	
48	チョウゲンボウ		○				○	○					
49	ハヤブサ			○	○	○	○	○	○				
50	モズ			○	○	○	○	○	○	○	○		
51	カケス				○								
52	オナガ			○	○	○	○			○			
53	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
54	ヤマガラ												○
55	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
56	ヒバリ						○						
57	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
58	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
59	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
60	オオムシクイ								○				○
61	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
62	オオヨシキリ			○		○				○	○	○	
63	ムクドリ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
64	コムクドリ				○	○							
65	シロハラ	○	○	○	○						●		○
66	アカハラ	○			○			○			○		
67	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
68	ジョウビタキ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
69	イソヒヨドリ	○	○		○		○		○		○		○
70	キビタキ	○				○							
71	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
72	キセキレイ			○									
73	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
74	セグロセキレイ				○								○
75	タヒバリ						○				○		
76	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
77	シメ							○				○	
78	ホオジロ	○		○	○			○		○			
79	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
80	オオジュリン			○						○			
81	ドバト	○	○					○			○	○	○
合計	81 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	45 種	38 種	38 種	44 種	41 種	40 種	38 種
		47 種		53 種		51 種		47 種		52 種		48 種	

表 12(3) 鳥類確認種目録(第 7 回～第 9 回)

No.	種名	調査時期							
		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～R5 夏)		第 9 回 (R5 秋～R6 夏)		第 10 回 (R6 秋～R7 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	オカヨシガモ								
2	ヒドリガモ		○				○		
3	マガモ								
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○
5	ハシビロガモ	○	○						
6	オナガガモ	○							
7	コガモ	○				○	○	○	
8	ホシハジロ		○	○	○	○			
9	キンクロハジロ								
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○		○
11	ホオジロガモ	○							
12	ウミアイサ	○		○	○	○	○		
13	カイツブリ			○		○			
14	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○		
15	ミミカイツブリ								
16	ハジロカイツブリ	○	○	○	○	○			
17	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○
18	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○
19	ゴイサギ								
20	ササゴイ								
21	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○
22	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○
23	チュウサギ								
24	コサギ	○	○	○	○	○	○		○
25	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	
26	カッコウ科の一種								
27	コチドリ	○	○	○	○	○	○		
28	ヤマシギ								
29	タシギ								
30	チュウシャクシギ		○				○		
31	キアシシギ								
32	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○
33	キョウジョシギ		○				○		
34	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	
35	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○
36	カモメ								
37	セグロカモメ	○	○	○	○		○		
38	オオセグロカモメ	○	○						
39	コアジサシ								
40	ミサゴ							○	
41	ハチクマ								
42	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○
43	ハイタカ					○			
44	オオタカ		●		○	○	○	○	

表 12(4) 鳥類確認種目録(第 7 回～第 9 回)

No.	種名	調査時期							
		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～R5 夏)		第 9 回 (R5 秋～R6 夏)		第 10 回 (R6 秋～R7 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
45	ノスリ	○	○		○	○	○		
46	オオコノハズク		●						
47	カワセミ	○							
48	チョウゲンボウ				○				
49	ハヤブサ		○				○		
50	モズ	○							
51	カケス					○			
52	オナガ								
53	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○
54	ヤマガラ								
55	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○
56	ヒバリ								
57	ツバメ	○	○	○	○	○	○		
58	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○
59	ウグイス	○	○		○				
60	オオムシクイ								
61	メジロ	○	○	○	○	○			○
62	オオヨシキリ					○			
63	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○
64	コムクドリ								
65	シロハラ	○	○		○		●		
66	アカハラ				●		○		
67	ツグミ	○		○	○	○	○		
68	ジョウビタキ	○	○		○	○	○		
69	イソヒヨドリ	○	○	○	○		○	○	
70	キビタキ								○
71	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○
72	キセキレイ							○	
73	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○
74	セグロセキレイ								
75	タヒバリ								
76	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	
77	シメ								
78	ホオジロ			○					
79	アオジ	○	○	○	○	○	○		
80	オオジュリン								
81	ドバト	○	○	○	○	○	○		
合計	81 種	41 種	41 種	33 種	38 種	37 種	38 種	22 種	18 種
		48 種		40 種		45 種		26 種	

注 1. ●:自動撮影カメラのみで確認された種を示す。



写真 2(1) 確認された主な鳥類



写真 2(2) 確認された主な鳥類

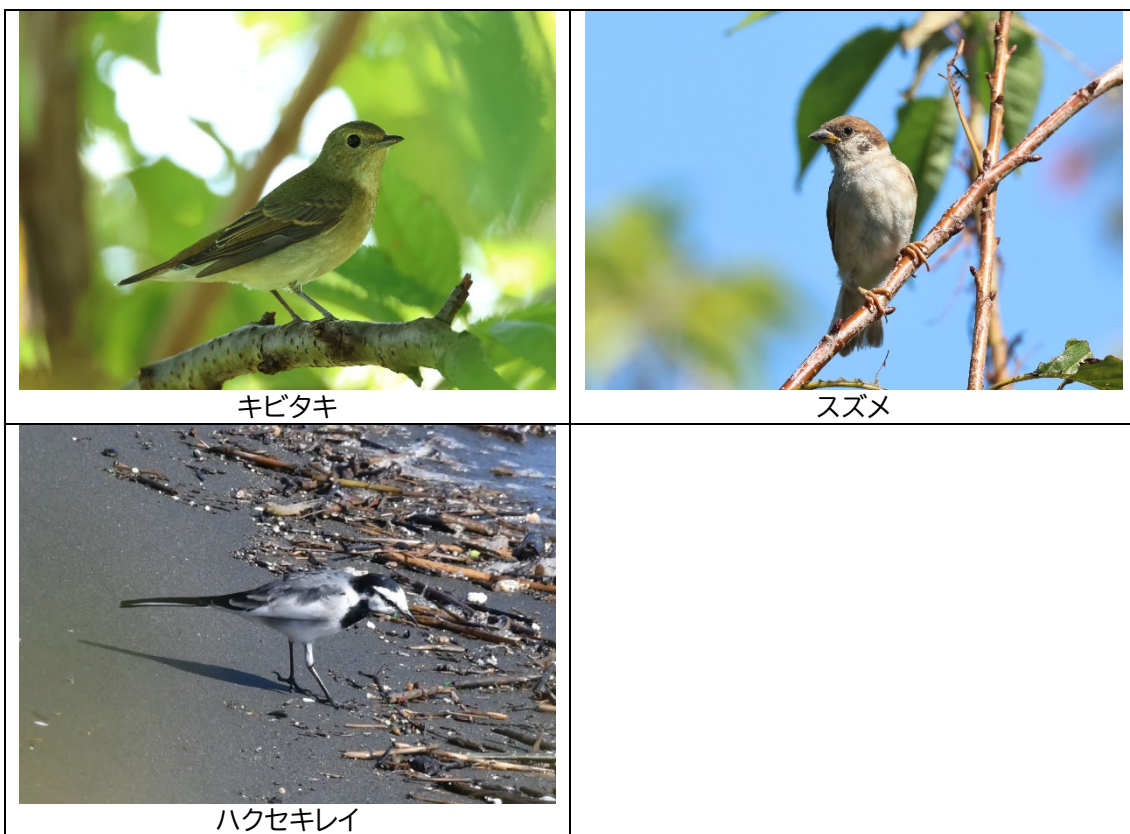


写真 2(3) 確認された主な鳥類



アオサギ



トビ(重要種)



ハシブトガラス



ドブネズミ

写真 3 自動撮影カメラで確認された生き物